

令和6年度病害虫発生予報第7号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
大豆	ハスモンヨトウ (防除情報第14号) 吸実性カメムシ類	やや多 やや少	やや多 並
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類 (防除情報第15号)	やや少 やや少 並	並 並 やや多
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ (防除情報第15号)	並 並 並 少 並	並 やや多 やや多 やや少 やや多
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 (防除情報第15号) オオタバコガ (防除情報第15号)	少 やや多 やや多	やや少 多 多
かんきつ	かいよう病 緑かび病、青かび病 ミカンハダニ (防除情報第16号)	並 やや少 多	並 やや少 多
果樹共通	カメムシ類	並	並

【発生予報】 本文の () 内は平年値

大豆

1. ハスモンヨトウ

令和6年10月16日付け病害虫発生予察防除情報第14号による。

2. 吸実性カメムシ類

予報内容：発生程度 並

(1) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(6筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.3%、株当たり虫数0.0頭、発生圃場率20.8%)。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率2.0%(20.3%)、株当たり虫数0.0頭(0.3頭)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年よりかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は主に着莢部に生息するので、薬剤が着莢部によくかかるよう防除を行う。

イ 9月に防除を実施した圃場でも、子実肥大後期まで加害するミナミアオカメムシの発生が多く認められる圃場では追加防除を行う。

ウ ミナミアオカメムシに対しては、合成ピレスロイド系薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定に当たっては十分注意する。

エ 薬剤散布にあたっては、収穫前日数に気をつけて薬剤を選択し、使用基準を遵守する。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 10月前期の巡回調査（17筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率0.3%、発生圃場率6.3%）。
 - イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

2. ジャガイモガ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 10月前期の巡回調査（17筆）の結果、発生を認めなかった（食害株率0.5%、発生圃場率13.2%）。
 - イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3. ヨトウムシ類

令和6年10月16日付け**病害虫発生予察防除情報第15号**による。

いちご

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - 10月前期の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 10月前期の巡回調査（26筆）の結果、発病株率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は11.5%（10.3%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - 発病及び枯死した株は、見つけ次第速やかに圃場外に持ち出し、圃場内及び周辺に放置せず、適切に処分する。

3. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 10月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は2.0%（1.2%）、発生圃場率は15.4%（21.6%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P218～221の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。
 - イ ハダニ類の天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を使用する。

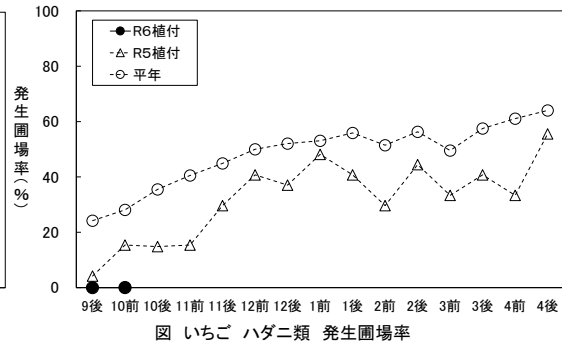
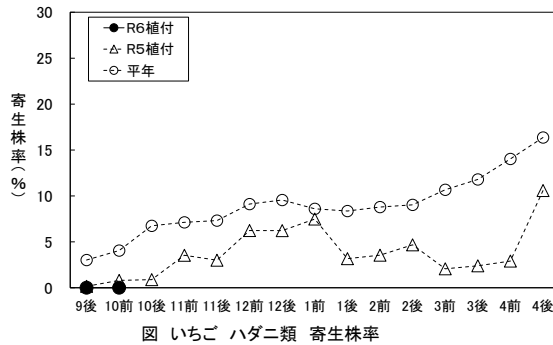
4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率4.1%、発生圃場率28.1%）（図）。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



(3) 防除上注意すべき事項

ア ビニル被覆後はハダニが増加しやすいので、被覆前までの防除を徹底する。

イ 薬剤散布前には古葉の整理を行い、薬剤が葉裏までかかるようにする。また、摘葉した古葉は、速やかに圃場外に持ち出し適切に処分する。

ウ 天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を用いて防除を行い、ハダニの密度を極力低減した上で放飼する。

エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P218～221「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

5. ハスモンヨトウ

令和6年10月16日付け**病害虫発生予察防除情報第15号**による。

ブロッコリー

1. コナガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率3.6%、株当たり虫数0.1頭、発生圃場率37.8%）。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P242～245の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。なお、ジアミド系薬剤（IRAC：28）の効果が低い個体群が県内で確認されているため、防除効果の低下が疑われる場合は別系統の薬剤を散布する。

2. ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）

令和6年10月16日付け**病害虫発生予察防除情報第15号**による。

3. オオタバコガ

令和6年10月16日付け**病害虫発生予察防除情報第15号**による。

かんきつ

1. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
10月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率は0.4%（0.5%）、発生圃場率は19.4%（13.2%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。
イ 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、強風雨が予想される場合は事前に薬剤散布を行う。

2. 緑かび病、青かび病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
10月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.0%、発生圃場率3.1%）。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 胞子が形成された摘果果実や樹上の発病果は見つけ次第、取り除き処分する。
イ 雨の日や雨の翌日に果実に水滴が残っているときは収穫を行わない。また、果実に傷を付けないように収穫、運搬、選果を丁寧に行う。

3. ミカンハダニ

令和6年10月16日付け**病害虫発生予察防除情報第16号**による。

果樹共通

1. カメムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
ア 10月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生圃場率3.1%）。
イ フェロモントラップ（諫早市、西海市）による直近の誘殺数は平年並である（図）。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 飛来量や飛来時期は園地により異なる場合があり、集中的に加害されるおそれもあるので、果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。とくに山林に近い園地や毎年発生が認められる園地では注意する。
イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布にあたっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。
ウ 収穫期に近い園地では、薬剤の選択にあたっては、収穫前日数に注意する。
エ 周囲に収穫期に入っている園地がある場合は、薬剤の飛散に十分注意する。

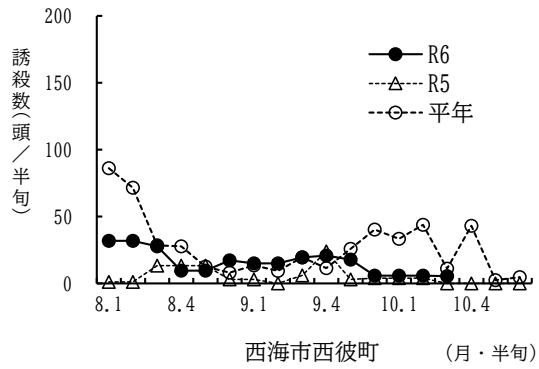
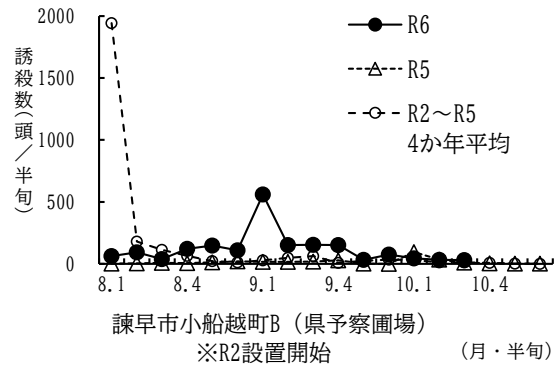
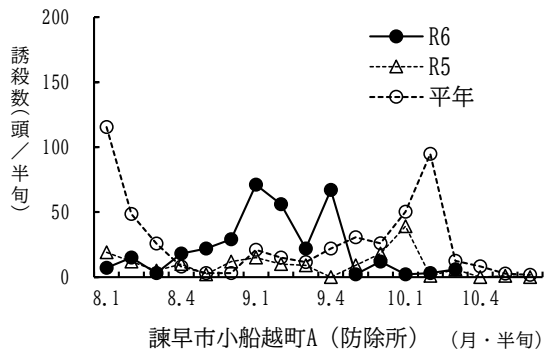


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況 (黄色コガネコール)

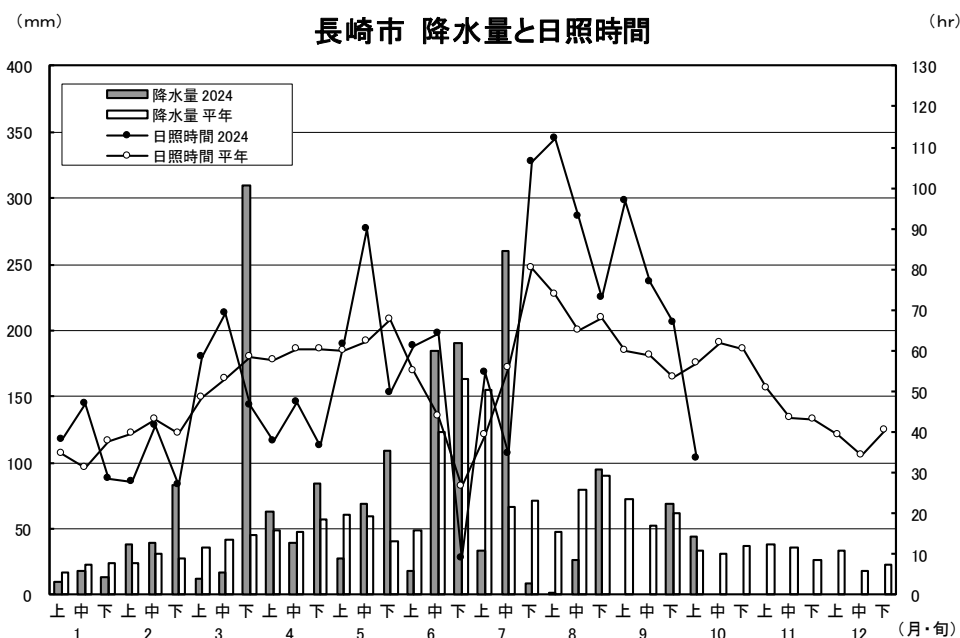
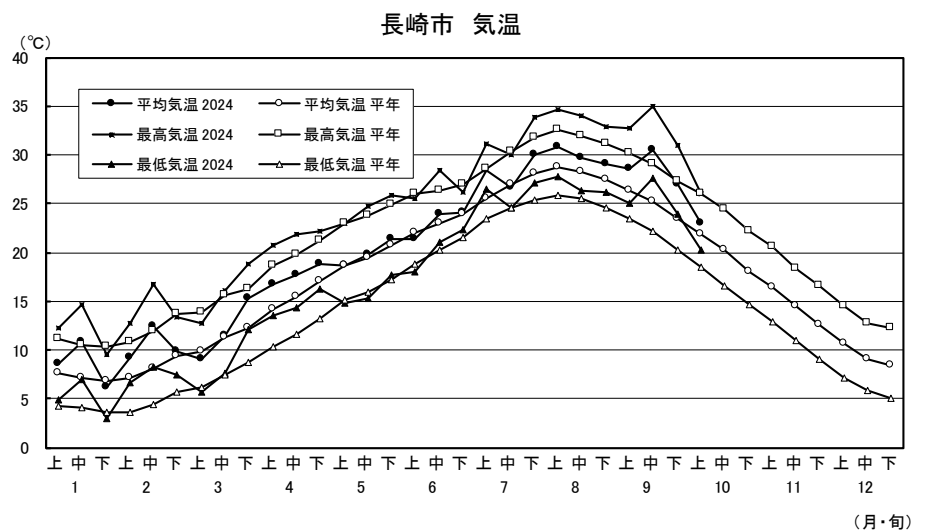
【参考】

(令和6年10月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	10	80
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

令和6年の気象経過(長崎地方气象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

